

## はじめての雪山講習会 ハケ岳実技・A（アルパイン）班の記録

山の会テンション 疋田 吉継

2018年2月16日夜～18日 ハケ岳大同心ルンゼ奥壁 参加者:受講生、コーチ、スタッフ計9人

### 2月16日

**21:40** 疋田号が中川校長以下5人を乗せて、大阪・梅田の旧中央郵便局前を出発。途中の高速道路のSAで2回休憩し、諏訪南ICで下車。ハケ岳山荘で停車し、山荘の仮眠室を覗いたが、すでに満室。さてどこで寝ようか？ハケ岳山荘の向かいにある、しゃれた山荘&レストランに大見さんが泊まっているのを知っていたので、「よし、大見さんを追い出して、我々はそこで寝よう」などとアホなことを言いつつ、赤岳山荘への凍てついた林道を進む。

### 2月17日

**03:00** ハケ岳山荘から5分ほど走った、川沿いの空き地で仮眠することにする。4人用テントを張り、さあ寝ようとする、私と中川校長以外の3人は、車の中で寝るといふ。せっかくテントで身体を横にして寝られるのに、あーあ、もったいない。しかし、おかげで我々はゆっくりと眠れました。

**07:00** 起床。道は凍っているが、Tさんの華麗なハンドルさばきで、無事に赤岳山荘駐車場へ。

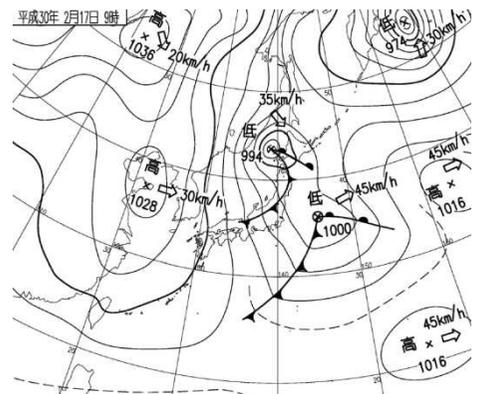
**08:30** 駐車場に到着。すでに車2台に分乗したA班の他7人は到着済み。大型のワゴン車で参加の10人組（ハケ岳山荘に駐車）が歩いて登ってくるのを待つ。その間に準備。

**09:30** G班が到着し、全員集合。身支度を整えながら、辻本副校長の行動予定や注意などを聞く。崖の上から鹿が我々の様子をじっと見ている。鹿はいったい何を考えてるのだろうか。「寒いのにアホちゃうか」と思ってるのだろうか。

**09:50** 出発。G班15人は南沢を歩いて行者小屋へ。A班9人は北沢を歩いて赤岳鉱泉へ。天気はよくない。山を見上げるとガスがかかっている。日本列島が低気圧に覆われ、日本海に前線が停滞している。予報では本日17日は大荒れ、18日も風が強く夕方まで天気は悪いとのこと。本日は、大同心基部まで行ってテント泊の予定だが、とりあえず、赤岳鉱泉まで行って様子を見ることにする。

**11:50** 赤岳鉱泉着。マイナス12℃。やはり先ほどより天気は悪化してきている。計画を変更し、赤岳鉱泉にテントを張ることにする。なんだかみんながホッとする。早速テントを設営し、昼飯を食べに鉱泉小屋へ。中へ一歩入る。暖かい。別世界だ。ちょうど昼時で、しかも天気が悪いので、小屋は大勢でこた返している。各々がラーメンやカレーなどを食べて腹を満し、少し休憩してから訓練に出発した。

**14:00** 鉱泉から、大同心沢を10分ほど歩いたところで、雪上確保の訓練をする。ビレイヤーが下



でスタンディングアックスピレイをし、リードが斜面を登る。10mほどのところにスノーバーで中間支点を取り、さらに7~8m登ったところで滑落。それを止めるという練習だが、雪の状態がよくないので、あまり満足いく練習にはならなかった。

16:00 テン場へ帰還。明日の天気予報も悪く、大同心登攀は無理そうなので、雪上訓練の予定で、

朝は6時起きということに決まる。そのためか、各テントでは遅くまで酒を酌み交わしながら、ワイワイと歓談する声が漏れた。



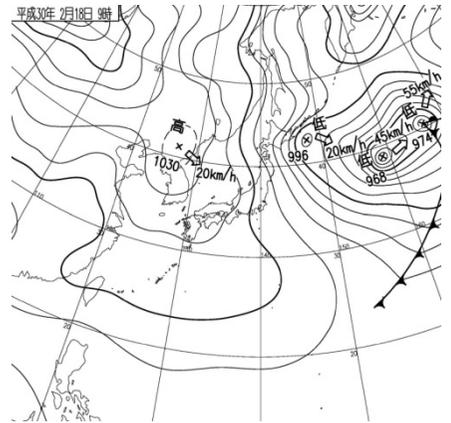
## 2月18日

05:20 「疋田さん、起きてる？」の中川校長の声で目が覚める。「中川さんに今、起こされました」（寝てたちゅうねん）。「風がやんだぞ。行けるんとちゃうか」。中川校長がテントから半身を出して夜空を見上げる。「星が出てる。行けるぞ」。

えっ、ほんまかいな。こっちは今日も練習やと思うてスリープモードやったのに。仕方ないなあ、起きるとするか。こんな私を尻目に、俄然やる気の中川校長は、さっそく各テントを回り、「起きろよ。6時過ぎに出発」と檄を飛ばす。元気いっぱいだ。私らも気を取り直し、あわてて食事を摂り、準備する。どうやら、天気の回復が半日早くなったようだ。

06:50 鉱泉のテン場を出発。気温はマイナス18℃とめちゃさむ。私はこのシーズン3回目のハヶ岳だが、いずれもマイナス18~19℃という極めて寒い日ばかりだ。何か悪いことした？

大同心沢を5分ほど歩いたところで、分岐を左に、大同心稜（尾根道）に向かう。ここから私がトップに立つ。ずっと樹林帯の中の急登。天気は曇りから少しづつ晴れてきたが、風は強い。ただ木々が風を緩和してくれる。ほとんどトレースがないため、軽いラッセル気味の登りとなる。急登を喘ぎながら一歩一歩踏みしめていく。



大同心の近くで、小同心クラックから帰還した3人グループとすれ違った。強風のため登攀を断念したという。すれ違いざま、「顔の凍傷に気を付けてくださいよ」と言われ、ハッとなった。あわてて後ろのTさんの方を振り返って、「顔、大丈夫ですかねえ」と尋ねた。Tさんが「右のほほが白くなってます」と言い、その後ろにいた中川校長が「軽い凍傷や。手でほおを押さえて温めて。こすってはダメ。感覚があるか」と。手でこすればほおの血管を傷つけてしまう。凍傷部分の色が白から透明になればかなり重度の凍傷だという。幸い感覚もあり、軽傷で済んだが、凍傷の跡は1か月後でもまだうっすらと残っている。私がフードを被らず、目出し帽だけで歩いていたのが悪かった。しかもトップなので周りの人も気付くのが遅れたようだ。

08:30 稜を登ること約1時間30分。やっと樹林帯を抜けた。とたんに激しい風が身体を揺さぶる。

風速は 10~15mはあるだろうか。

大同心基部の岩稜帯を少し登り、基部のバンドを右にトラバースしてルンゼ方向に向かう。50mほどの距離だが、ここが一番危険なところだ。右手（西側）が切れ落ち、足場は 30~50cm の幅、ここで滑れば、大同心沢を一気に滑り落ち、大滝まで一直線だ。慎重にゆっくり確実に歩く。



**9:00** 大同心奥壁の取り付き地点に到着。9人が3人ずつ3パーティー（中川-土田-疋田，二宮-松芳-岡林，白川-近藤-村上）に分かれる。それぞれがハーケンやワートホグを打ち付け支点の構築にかかる。私は夏場と勘違いし、ハーケンを打つ際に、口でハーケンを咥えてしまった。「あっ」とすぐに口からハーケンを外したが、後の祭り。皮がピローンとめくれちゃいました。ほんまにアホです。

**9:15** ザイルを出して、登攀開始。気温はマイナス 18℃、晴れ。風も弱まり、岩壁の上の方に陽が当たりはじめた。うれしい。

ルートはⅢ級。直上し、ほぼ中間地点で右側に折れて登る。ザイルいっぱい50mで1Pを切る。そこから2P目は、奥行きが10~15mの広いバンドになっている。アイゼンでの登攀訓練にはいい場所だ。

**10:30** 全員が終了点に到着。風もなく、陽が当たって気持ちがいい。朝とはえらい違いだ。横になり、しばらくのんびりとくつろぎたい気分だが、やはり降りないとダメだ。

懸垂の支点は2か所ある。終了点近くのは、岩にスリングが巻いてあり、そこから30mほど右側（南側）にもペッツルボルトの支点がある。どちらも同じところに降りるが、岩にスリングが巻いている方を使う。ザイルはそのまま下にダウンするのではなく、身体に付けたザイルバッグに収容し、そこから少しづつ出して懸垂する。冬は風が強いので、ザイルが流されたり舞い上がってもつれるのを防ぐためである。



**11:30** 懸垂終了。下山を開始する。基部のバンドも岩稜帯も、登りより慎重に歩く。下りでアイゼンでも引っかけたらアウトだ。樹林帯に入る。こんな急だったかなと思うほどの下りだが、時間がないので少々急ぎ足で降りる。足がしんどい。

**12:50** やっとテン場に着く。しんどかった。しかし、のんびりはしてられない。急いでテントを撤収した。

**14:00** 下山開始。

**15:15** 赤岳山荘の駐車場に到着。全員で握手して、登山の無事成功を祝った。

## 校長 中川和道からのコメント

「はじめての雪山講習会」は今年2017年度の第3回目では試験的に実践山行を取り入れてみた。初めての本格的な冬のアルパインクライミングを目指すA班は受講生4名コーチ5名。自分で確保支点や中間支点を構築し、1~2ピッチ登り、さらに同ルートを通り懸垂下降する課題を設定した。講習会などでよく使われている大同心ルンゼ奥壁でこの課題を実施した。

2/18はまだ悪天が明けずとの予想でA班は朝寝坊を決め込んだ。G班が出発した5時半に好天に気づいて、しまったと起きだしたが、テント発が7時と出遅れた。白川コーチによればこれが幸いして「残りものに福」となった。大同心ルンゼ奥壁にとりついた9時過ぎには風がずいぶん治まり、陽光に恵まれながら、痛快な冬の登攀を楽しむことができた。A班の実践山行は成功したと評価できよう。

ハーケンを本格的には打ったことがない、下降器のゆるい使い方をしたことがない、カラビナを流した、カラビナをくわえて唇を破った、顔に凍傷を負った、落石を何度も起こした、アイゼンがはずれた、2名同時の懸垂下降ができなかった、パーティー編成に不行き届きがあったなど反省事項は枚挙にいとまがなく、実施側参加側ともに今後の改善が望まれる。受講生やコーチ各自にあっては、今回の経験をもとに、今後の精進の方向性を定めて下されば幸いである。

大同心ルンゼ奥壁 2018年2月18日  
作図 足田吉継 中川和道

